

(仮称) 盛岡広域連携中枢都市圏ビジョンにおける 「中長期的な将来像」について

1 連携中枢都市圏ビジョンの構成について

(仮称) 盛岡広域連携中枢都市圏ビジョンには、国が定める「連携中枢都市圏構想推進要綱（以下「要綱」という。）」に基づき、以下の事項を記載することとされている。

- (1) 連携中枢都市圏及び市町村の名称
- (2) 連携中枢都市圏の中長期的な将来像

今後の人口動態について認識共有をしつつ、連携中枢都市圏全体で圏域の経済をけん引し人々の暮らしを支えるという観点から、当該連携中枢都市圏の将来像を提示する。

- (3) 連携協約等に基づき推進する具体的取組

将来像の実現に向けて、各連携中枢都市圏形成に係る連携協約等において規定された事項に基づき、関係市町村が連携して推進していく具体的取組の内容を記載する。

- (4) 具体的取組の期間
- (5) 成果指標

策定された都市圏ビジョンの進捗を管理するため、地域経済、高次都市機能及び生活関連機能に関する成果指標を記載する。

盛岡広域圏では、盛岡広域圏経済戦略を策定し、圏域全体の経済成長のけん引に向けた検討を行ってきたほか、現在、圏域で連携して取り組むことが望ましいと考えられる事業について実現可能性等の検討を行っている。

上記の構成について、全体のイメージは資料 2-2 のとおり。

2 盛岡広域圏の中長期的な将来像について

- (1) 記載内容

都市圏ビジョンにおいて示される圏域の中長期的な将来像は、「一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成する」という連携中枢都市圏形成の目的を踏まえ、

- ・圏域の現況（将来推計人口、都市機能の集積・強化の状況等）
- ・将来人口を踏まえつつ算出した中長期的な将来の人口、高齢化率の目標等を記載することとされている。

先行自治体における記載内容については資料 2-3 のとおり。

(2) 盛岡広域圏経済戦略における「目指す姿」

昨年度策定した盛岡広域圏経済戦略においては、「チャレンジと共創による、100年後も元気な、希望のふるさと盛岡広域圏」をキャッチコピーとし、圏域の目指す姿を次のとおりとしている。

盛岡市，八幡平市，滝沢市，雫石町，葛巻町，岩手町，紫波町及び矢巾町の3市5町は，住民の通勤・通学，事業活動などにおいて一体性を有しており，一つのまとまった経済圏を構成しています。

圏域には，多様でバランスの取れた自然，文化，歴史などの地域資源及び企業，研究機関，高度人材等の集積があることから，この強みを生かして，多くの企業・人が新たな事業や製品開発などにチャレンジし，共に力を合わせ，切磋琢磨しながら，高付加価値の製品・サービス等を生み出すことで，100年後の未来においても，圏域に暮らす人々が，希望とふるさとを愛する心を持ち続ける圏域の形成を目指します。

盛岡広域圏経済戦略は，都市圏ビジョンにおける経済成長のけん引に向けた取組分野の基本的な方向性を示したものであることから，上記の「目指す姿」をたたき台として，都市圏ビジョンにおける中長期的な将来像を検討したいと考えている。

(3) 検討の視点

上記(1)，(2)を踏まえ，次のような視点から，都市圏ビジョンにおける「中長期的な将来像」について委員各位の御意見をいただきたいと考えている。

ア 盛岡広域圏経済戦略における目指す姿は上記のとおりであるが，都市圏ビジョンにおける目指す姿を考える上で不足している視点はないか。

イ 上記アの検討を踏まえ，目指す姿を実現する上でどのような分野に重点的に取り組むべきか。